

人間の攻撃性に関する基礎的研究

—学校における体罰防止の観点から—

1. 概要

本研究は、学校における体罰の予防・防止に向けて、教員の意識や行動の実態を明らかにし、教育現場における支援の在り方を検討することを目的とした。1年目は「攻撃性」の理論的検討を行い、2年目（今年度）は攻撃性に関する自由記述アンケートの実施、体罰防止に関するアンケートの見直しを行った。ここでは、前者についてワードクラウド分析、マインドマップ分析、4象限分析を行うことで、人間の攻撃性を多角的に捉え、学校教育における体罰との関連性を検討した結果を報告する。

2. 方法

教員が「攻撃性」という言葉に対してどのようなイメージを抱いているのか、それが体罰とどのように関連しているのかを検討するため、知的障害特別支援学校教員を対象に自由記述形式のアンケートを実施した。「攻撃性」から想起される言葉を5つ以上挙げる設問に対し24名の教員から回答が得られた。得られた回答は、User LocalテキストマイニングツールおよびChatGPTなどのAIツールを補助的に用いて分析した。

3. 結果

ワードクラウド分析を行った結果（図1）
マインドマップ分析を行った結果（図2）
4象限分析を行った結果（図3）を示す。

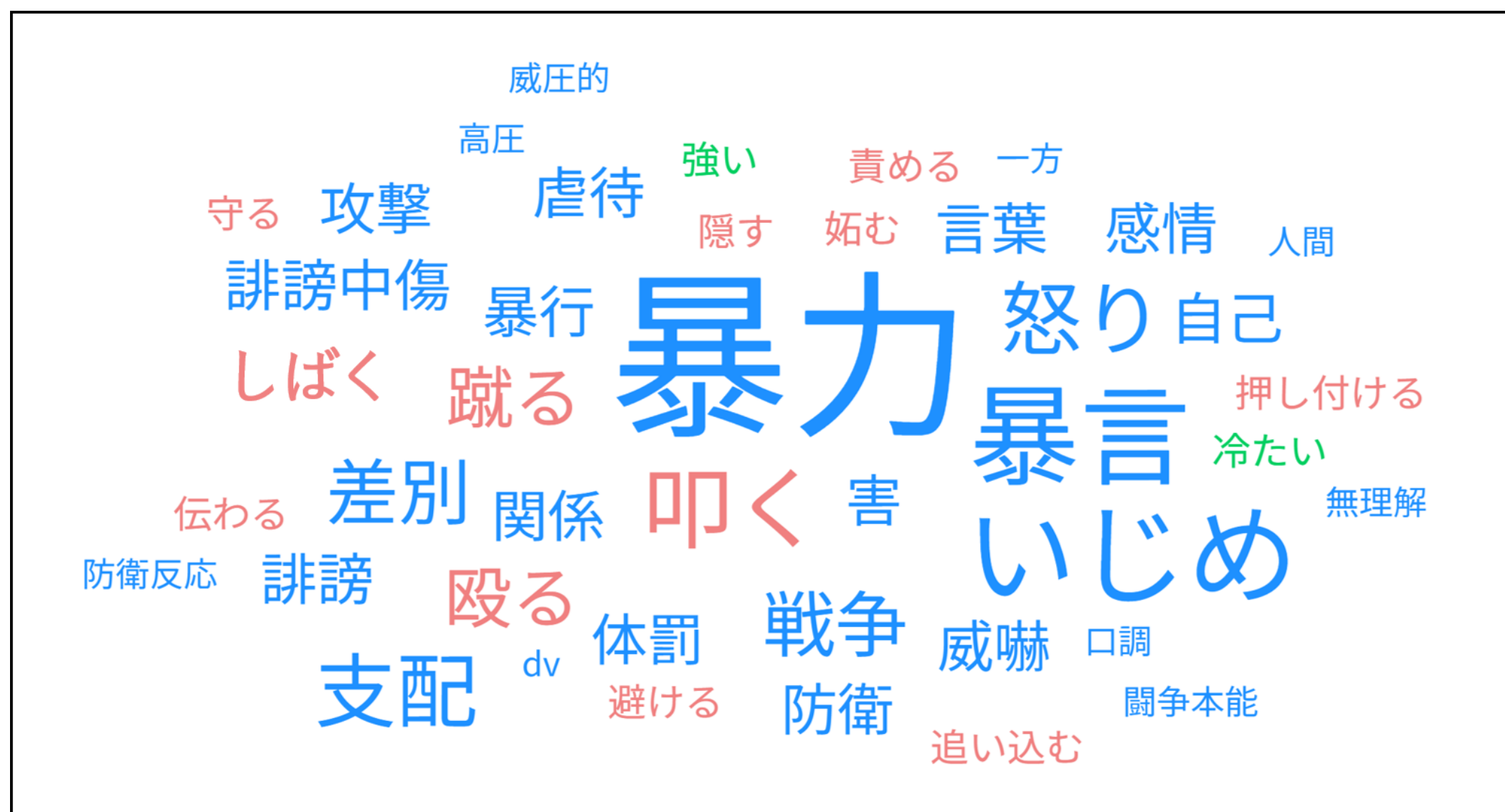


図1 ワードクラウド分析の結果

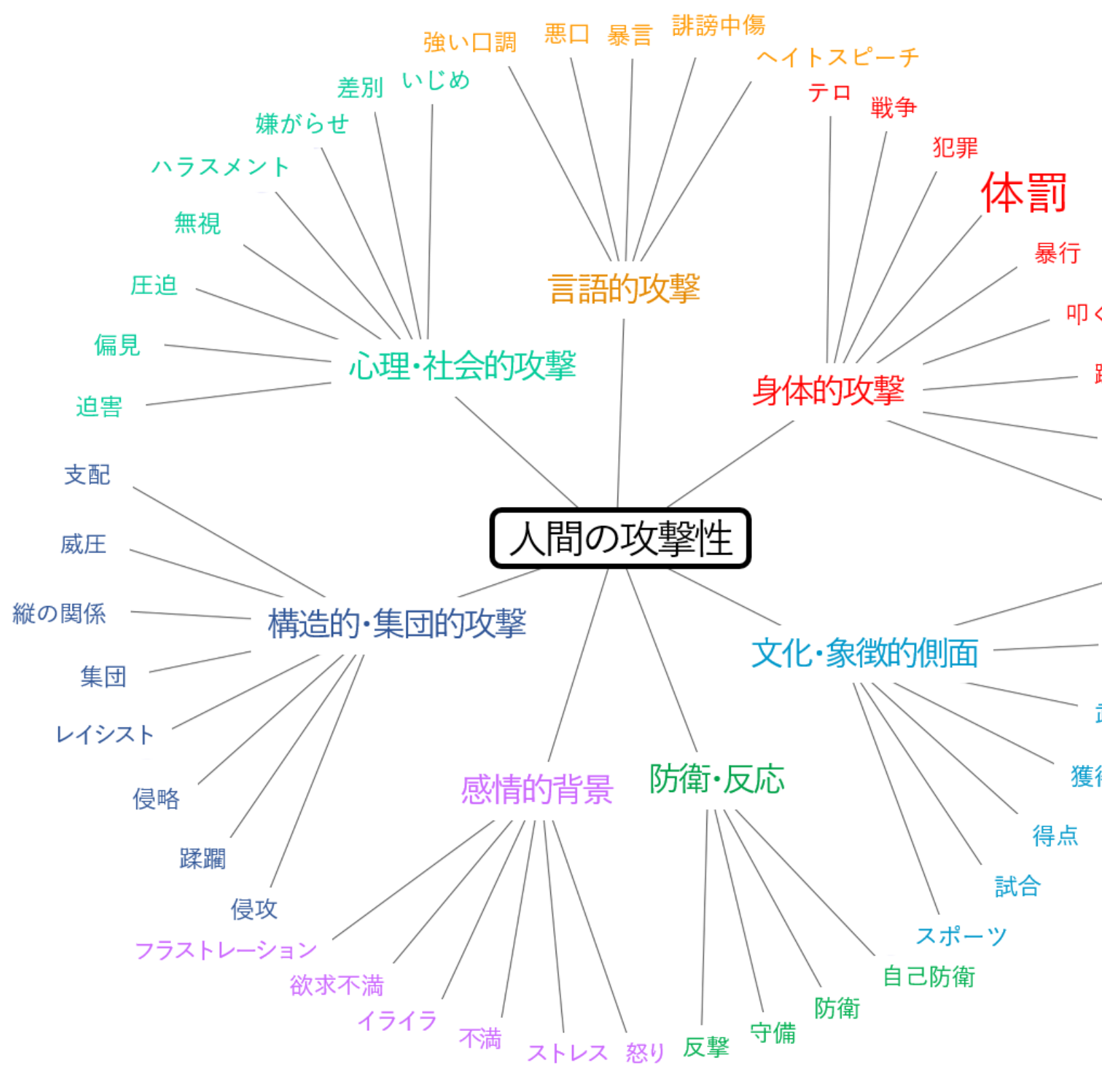


図2 マインドマップ分析の結果

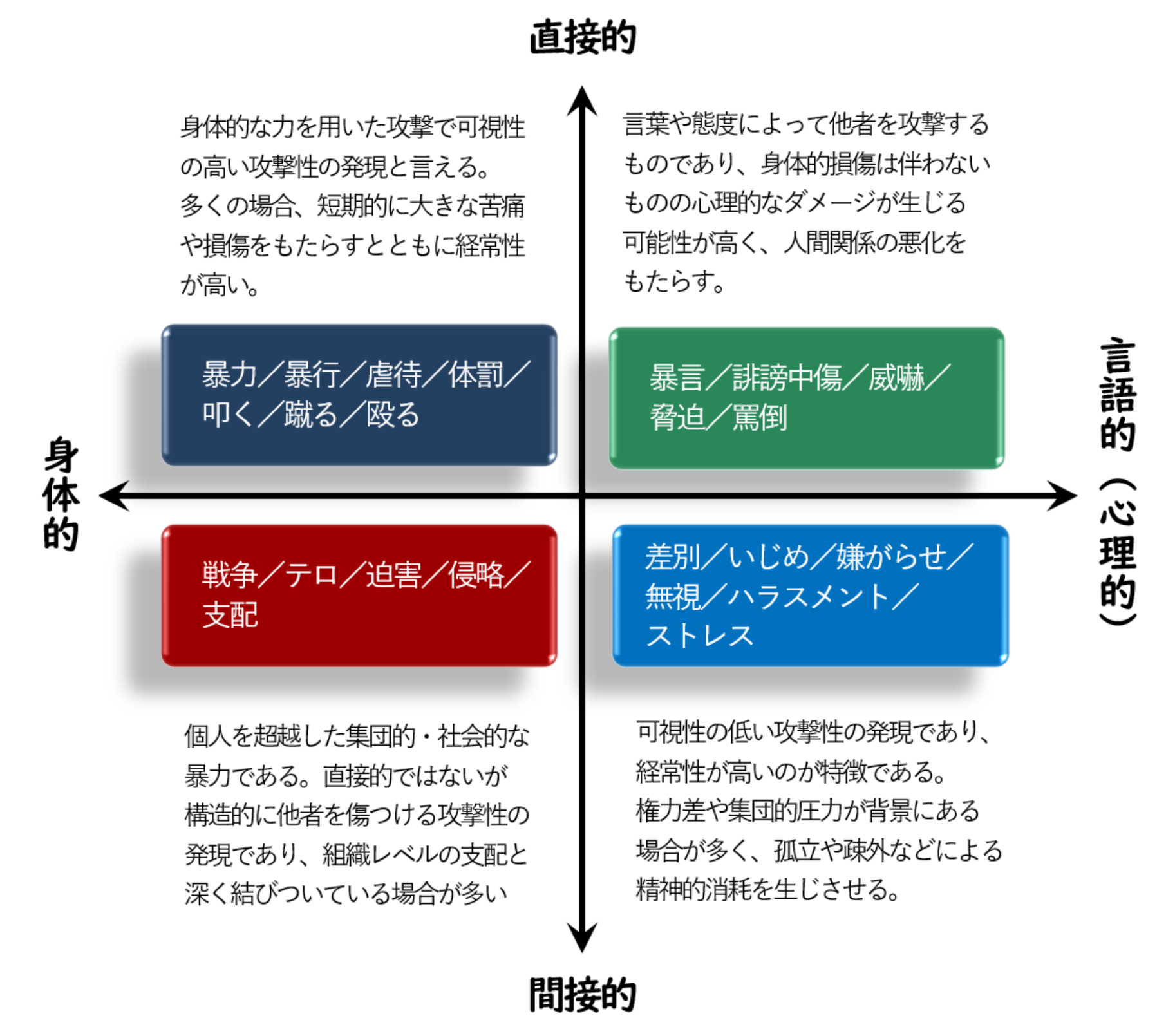


図3 4象限分析の結果

4. 考察

ワードクラウド分析の結果からは、教員が「攻撃性」を主に身体的・言語的な直接的攻撃として捉えている一方で、「防衛」「守る」といった防御的側面や、「差別」「支配」などの社会構造的な攻撃性も一定程度認識していることが明らかとなった。これは攻撃性が単なる加害行動ではなく、関係性、文化、感情などの影響下で多様な形をとって発現することを示しており、1年目の理論的検討と整合する結果となった。

マインドマップ分析の結果では、「体罰」は「身体的攻撃」に分類され、「暴力」「殴る」「蹴る」などと同列に位置づけられていた。これは、体罰が直接的に相手の身体を傷つけ、即時的な苦痛を与える行為であることを示している。しかし、教育における体罰の問題は、身体的攻撃に限定して理解するだけでは不十分であり、「構造的・集団的攻撃」（制度的に正当化されやすい攻撃性）、「感情的背景」（体罰が生じる心理的背景）、「言語的攻撃」「心理・社会的攻撃」（いじめなどの二次的な問題が生じるリスク）、「文化・象徴的側面」（部活動に象徴される勝利至上主義、根性論、閉鎖性）といった複数のクラスターとの関係において理解する必要があると考えられた。

4象限分析の結果からは、体罰は単なる「身体的・直接的な攻撃性」として一象限に閉じ込められるものではなく、言語的攻撃、心理的ダメージ、人間関係の歪み、さらには制度的・文化的な支配構造へと連鎖するような4象限を横断する暴力の結節点として位置づけられるものであると考えられた。

学校教育における体罰を防止・予防するためには、体罰を単なる個人の行動的・感情的逸脱としてのみ捉えるのではなく、学校文化に埋め込まれた構造的な問題、新たな負の感情を再生産する循環的暴力、さらには複数の攻撃性が連鎖する起点として捉え、防止・予防に向けた方策を講じることが重要となる。そのためには、教員一人ひとりの意識や感情に働きかけるだけでなく、学校全体としての支援体制や非暴力の文化・風土の醸成が不可欠である。また、攻撃性を「心的エネルギー」という観点から捉え、それを建設的に昇華させる教育的支援の在り方、例えばMcGee他が提起しているジェントルティーチングなどの非暴力の心理的援助法を模索し実践することが体罰の防止・予防に向けた鍵になると考えられた。